

辰口久常地区とのタウンミーティング

2018. 11. 21 (水) 19 : 30～21 : 20

久常コミュニティセンター

○参加者 市民 約 45 名

○タウンミーティング議事録

●地区町会長 代表 あいさつ

- ・先日の都市計画マスタープラン再構築の説明会では 20～30 年後についての話だった。将来のことも大切だが、現在のことも大切である。今回は一町会だけでなく複数の町会が参加しているので、隣り近所の意見も聞ける良い機会となる。

●市長あいさつ

- ・たくさんの地域に密着した質問・意見をいただいている。防災に関する意見も出ている。昨年度以来、大雨、台風、大雪に見舞われている。土砂災害警戒情報が昨年度は 4 回、今年度は 3 回出ている。今年の 7 月の大雨では辰口地区の町会に避難勧告を発令した。その際、町内のみなさん一人ひとりにどうやって情報を伝えるかということが課題となった。避難勧告を発令したことだけでなく、避難する時は着替え、食糧、薬などを持ってきて欲しいこと、避難所までのバスの出発時刻などいろいろな情報を伝えなければならない。
- ホームページ、防災行政無線、広報車、のみチャンネルを使ったが十分ではなかったもので、町会の役員、自衛消防団、民生委員、市職員がチームとなり一軒一軒まわって情報を伝えた。
- いつ災害が発生するかわからない中で、行政だけでは対応できないことがあり、ご協力・ご支援をいただきたい。また、最近は外国人が増えており、能美市には 1350 人ほど住んでいる。人口比率でいえば県内 No.1 である。避難勧告を出したときは外国人にも情報を伝えなければならない。言語や生活習慣が違うので、どう対応していくのか課題となっている。
- このように避難勧告を出すことだけでも、いろいろな取り組みが必要だと思っている。

●意見交換

1、消防・防災について

(徳久町)

- ・辰口中央小学校が避難場所となっている。学校自体は高台にあり、辿りつけば安心な所

である。しかしそこに行くまでの道のりで、上開発・下開発・荒屋町地内を流れる得橋用水を渡る必要がある。低いところにあるので大雨のとき通るのは心配である。前にも質問したがはっきりした回答をもらっていない。他にもルートはあるが遠回りである。避難するコースをどう考えているのか。

- ・また、久常体育館を指定避難所にしてもらえないのか。

(市長)

- ・能美市では 100 年に一度の大雨が降り手取川や梯川が氾濫したことを想定してハザードマップを作った。これを基に地域の皆さんと一緒に避難場所や経路の検討・協議をしていく。今度、町会役員との話し合いの場を設ける予定である。
- ・指定避難場所は、国の指針に基づいて決めており、あらゆる危険性に耐えうる施設を選定している。久常体育館は洪水の際、浸水する可能性があり、2 階がないので指定避難所となっていない。しかし、一時避難所としては活用できる。

(市民)

- ・久常コミュニティセンターも 2 階があるので避難所として考えて欲しい。

(市長)

- ・検討する。

(北市町)

- ・最近、白山で微動地震が増えておりいずれ噴火するのではないかと心配している。白山が噴火したら手取川ダムが決壊し大洪水となる。そのときにどうすればいいのか。自然災害は突然起こるものである。高齢者が多く避難所となる辰口中央小学校へ行けない人もいる。町内には市の除雪倉庫がありその屋上を避難場所にできないか。鉄塔櫓を整備し一時避難所とできないか。手取川決壊のことも考えてほしい。

(市長)

- ・白山噴火までの想定は無いが、1,000 ミリの雨が降る場合でも、川の水位は徐々に上がってくると想定している。事前に避難を呼びかける体制をとりたい。櫓に避難しても野ざらしの状態であり雨や雪が降る中、何時間いられるかと思う。
先ほども述べたが、今度、どのタイミングで避難を開始するのか、どこに避難するかなど皆さんと協議する機会を設ける。

(下開発町)

- ・以前になっていた朝、昼のチャイムがなくなった。外で畑仕事などをしている高齢者にと

って正午になったことがわかり便利なので、チャイムを流して欲しい。

(市長)

- ・チャイムを鳴らす時間について以前は旧町ごとに違っていたが、市内の防災行政無線をデジタル化した時に市内統一が必要となった。朝や昼にチャイムになる事について一部の地域からクレームがあり、夕方のみチャイムを流すことになった。
チャイム復活を望む声が多くあれば考える必要があるので、町会・町内会長会で意見を聞いてみる。

(市民)

- ・どこの地域からクレームがあったのか。

(市長)

- ・そこまではわからないが、小さなお子さんがある家庭からのクレームがあったと聞いている。

2、交通安全、ゴミ不法投棄防止について

(下清水町)

- ・下清水の真ん中を通る道路（市道下清水出口線）があるが、朝6時30分から8時までの交通量が非常に多く、横断歩道を見越して走行する車もいる。以前信号機の設置を求めたが重大事故が起きていないためできないといわれた。事故防止に信号機が全てではないが対策をお願いしたい。
- ・町内で不法投棄が多発している。50 リットルのゴミ袋に生ごみ、空きびんなどが入っており悪質である。これまで市の担当課長など相談したり、警察にも見てもらったりしている。不法投棄禁止の看板も立てたが意味がなかった。監視カメラの設置を含めた何らかの対策をして欲しい。

(市長)

- ・交通安全については、警察に強く信号等を要望しているが、設置が難しいので、パトロールを強化したり、スピード違反取り締まりの回数を増やしたりしている。また、交通安全協会では、レッドライン作戦を実施していくとも聞いている。引き続き警察署、交通安全協会に対策・協力を依頼していく。
- ・不法投棄については、たしかに悪質である。監視カメラに関しては特定の地域だけに設置するわけにはいかず、市内全域に設置するとなると膨大な費用がかかってしまい難しい。対策として、モラル向上のための広報を実施、パトロール強化をしていく。警察と相談しながら進めていく。

3、児童館、公民館（地域拠点）について

（下清水町・徳久町）

- ・久常児童館にあった老朽化していた滑り台が、6月に撤去された。他の遊具もいずれ劣化してくると思うので、遊具の更新の要望を出したところ、してもらえとの回答をもらっている。
- 一昨年、下清水町の公園の遊具を更新してもらったが、面積に応じて遊具の設置台数が決まっているとのことだった。児童館の遊具の更新計画について教えてほしい。
- ・辰口児童館ができれば久常児童館はどうなるのか。

（市長）

- ・事前に道路防犯灯の配電盤の腐食についても質問があったので合わせて回答する。11月初旬までに更新工事を終了した。支柱についても補修を検討している。
- ・遊具は順次撤去し、来年度中には新しい遊具を設置していきたい。
- ・久常児童館の建物は残るので遊びにきてもらっても大丈夫である。ただし、児童館機能はなくなるので、イベントは少なくなる。

（市民）

- ・道路防犯灯の修理の件や久常児童館継続の件は有難いと思う。上清水から緑が丘の都市計画道路の防犯灯も久常児童館のものと同時期に設置されたので、同じように傷むと思うので見て欲しい。

（市長）

- ・対応する。

（徳久町）

- ・青年団、壮年団、婦人会など団体の組織活動が弱体化している中で、徳久町では町会の融和連帯感醸成のために、月二回公民館を活用してカラオケの会をしている。そこは町民の生活状況や健康状態、町内の不都合な箇所など情報交換の場にもなっている。老若男女が集い、語り合うことが大切である。町民が自然に公民館に足を運ぶことになるようなカラオケ設備、囲碁などの整備を市としてできないのか。

（市長）

- ・まず、公民館活動への補助制度があるので活用してもらいたい。
- ・また、町会が主体となって介護予防の面から事業を行うと、国の助成メニューが利用で

きるかもしれないので、詳しくは担当課である我が事丸ごと推進課から連絡する。

4、介護保険、市立病院について

(北市町)

- ・能美市の介護保険料はなぜ高いのか？
- ・元気な高齢者がたくさんいる。要介護者でない85歳以上の元気な方に特別な手当の支給があってもいいのではないか。
- ・能美市立病院には内科・外科・整形外科・小児科・眼科・泌尿器科の6つの外来があるが、どの地域からどのくらいの外来患者がくるのか。また市立病院にはどのような特徴があるのか教えて欲しい。

(市長)

- ・今後3年間で必要となる介護サービスの総費用を65歳以上の人数で割ったものが介護保険料となる。能美市では介護関係の施設が充実している。多くの人が利用しているのでサービス費がかかり、高くなっている。今は石川県の市町の中では能美市が一番高くなっているが今後、他の市町の施設整備が進むと差はなくなると思われる。
- ・今まで85歳の元気な方に1万円の商品券を贈呈していた。今年から75歳、95歳の方々にも商品券を贈呈することにした。また88歳、100歳になった方、最高齢の方にも商品券を贈呈している。皆さんにも健康で長生きしてほしい。
- ・市立病院には6つの外来以外に、毎日実施しているわけではないが、皮膚科、婦人科、耳鼻咽喉科、禁煙外来、物忘れ相談外来もある。
利用しているのは、市内の方は77%、そのうち辰口地区1.4%、寺井地区11%、根上地区65%である。患者数は、月平均5,000人である。
今後は地域のかかりつけ医と連携した地域密着型の病院にしたいと考えている。回復期、療養期に利用してもらえる病院として運営していきたい。

5、道路整備、健康ロードについて

(北市町)

- ・東西道路について、先日小松市を通るルートが開通し完成も近いと思われる。辰口地区はどうなるのか。加賀産業道路へつながって完成となるのか。
- ・北市町内の東西を通る道路が狭くて袋小路のようになっており、緊急車両も通行できるよう拡幅等を検討して欲しい。

(市長)

- ・東西連絡道路は、市内の東西をつなげることを主眼にしており、まずは西へと工事を進めていって、小松市の高堂の道路を拡幅し、高堂と中ノ江の陸橋をつなげていく。これらが終わると東へと進めていく。寺井図書館前から寺井小学校、湯野小へとつなげていく。その次にさらに東へ工事を進めて行くが、どのように加賀産業道路とつなげるのかまだ決定していない。整備には資金と年数がかかるため、寺井小学校の前の道路整備にいつ着手できるかも決まっていない。改めて、時期がきたら相談していく。
- ・北市町の道路について、市には道路工事への補助制度がある。地元町会が主体となって生活道路の工事をした場合に測量・工事費の半分を市が補助している。用地確保費、物件移転費は地元町会の負担となる。具体的なことは土木課または都市計画課へ相談してほしい。

(荒屋町)

- ・通学路で下開発町から上開発町間の舗装が傷み、雨の日は水はねがあり通学しにくい。

(市長)

- ・痛みが激しい道路は劣悪なところから順次直していく。

(徳久町)

- ・健康ロードの桜並木は、木が成長して地元に弊害が出ている。剪定をして欲しい。また、間引きをしてはどうか。今後の管理・維持計画を教えて欲しい。

(市長)

- ・昭和60年前後に地域と町役場職員で植栽したと聞いている。辰口地区は約1,100本、寺井地区には約200本植えられている。
管理についてアメシロ消毒は年2回実施している。枝の管理は、エリアごとに5年に1回のローテーションで実施している。来年度は予算を増額して管理強化を図っていく。

6、除雪について

(北市町)

- ・今年の冬は大雪で、除雪の対応に感謝している。北市町の子どもは冬でも歩いて通学する。業者が通学路の除雪してあげたいということで市へ確認したが、してはいけないと言われたということだった。何をもってそういう回答だったのか。

(市長)

- ・市の除雪の基準があり、積雪が10cm以上になったら除雪車が出動することになって

いる。その時は積雪が10cm未満だったと聞いている。

(市民)

- ・今後10cm以上の積雪となったら、通学路を優先して欲しい。

(市長)

- ・今年度は雪害対策費として1億円予算計上した。例えば除雪機を増やしたり除雪機を運転できる人を増やすため免許取得補助のメニューを作ったりした。

(市民)

- ・雪の仮置き場を業者と相談したときに、下清水町の公民館の前が除雪の対象となっていない図面を持っていた。本来は対象のはずだが古い図面が配られていたのではないか。他の地区は大丈夫なのか。

(市長)

- ・調べる。

(市民)

- ・北市町には工場があり、従業員が全国から来ている。雪道の運転が苦手な人もいると思われ、雪にはまってしまう車を見かける。消雪装置は導入できないのか検討してはどうか。

(市長)

- ・まず、消雪装置に必要な地下水が乏しくなっていること、既存の装置の維持にコストがかっている。また、設置の優先順位が高いのは道路の両側に民家等が建っており、雪のやり場がない箇所である。

(市民)

- ・導入してほしい道の脇は田んぼなので難しいということがわかった。

7、農業振興について

(上開発町)

- ・能美市として、これから先の農業、主に稲作に対するビジョンはあるのか？
- ・40年ほど前に田んぼを広くして農道を整備したが、痛みが目立ってきている。農道の補修費用に対する修理負担はどうすればいいのか。農業の担い手が少なくなっている

中でどう維持していけばいいのか。

(市長)

- ・農業に関しては、人口が減少し、色々な輸入品がある中で売れるものを作っていくことが大切だと思う。多くの人が欲しいと思う水稻をつくる必要がある。水稻がつかれないのであれば、能美市だとハトムギなど他の作物に変えていくこともできると思う。市としても支援していきたい。農産物の付加価値をつけるため 6 次産業化を推進していく。
- また、機械の自動化・IT化を進めて省力化を図っていくことも有効だと思う。石川県でもメーカーと組んで新しい農業機械を開発しようとしている。町内で農業をしている方々で機械を共同購入する際に支援できないか模索したが、法人化していないと国の補助メニューの採択を受けることが難しいということがわかった。
- ・農道の補修費用については、正直、良い解決策はない。しかし、ある地区では町会役員と生産組合、農家、非農家が話し合いをしている。みんなが農道や生活排水路を利用しているので非農家の世帯も負担してもらえるように協議している。町会の中で話し合いをして解決策を見出してほしい。

(荒屋町)

- ・農業振興地域（青地農地）は、いつどのように決まるのか。地主に連絡がないのか。手取川白山頭首工の事業とどのような関係があるのか

(市長)

- ・いわゆる青地農地については昭和44年にできた農業振興地域の整備に関する法律（農振法）という法律に基づいて旧辰口町のときに決められたものである。青地を白地に変えて開発する時は、市や農業委員会の許可で決めている。また、白山頭首工（国営手取川流域かんがい排水事業）の受益地は事業完了後 8 年を経過しないと青地から白地に変えることは難しいという国の決まりがある。

8、観光振興について

(下開発町)

- ・北陸新幹線が開通し首都圏から人が能美市にも入ってきていると思う。辰口温泉、九谷陶芸村、松井秀喜ベースボールミュージアム、いしかわ動物園などの観光資源を活用してお客さんに体験してもらい、プレゼントをして、観光振興したらどうか。旅行業者と共にシステム化していったらどうか。

(市長)

- ・首都圏の人に辰口温泉、いしかわ動物園を選んでもらう、来てもらうには魅力を増し、発信していく必要がある。また、能美市だけにはなかなか来てもらえない現状がある。九谷陶芸村では名工から新進気鋭の作家さんの作品まで見ることができ、絵付け・作陶体験もできるが、ここだけに来る人は少ない。小松と連携して旅行商品を開発してPRすることを始めている。加賀地域連携推進会議や小松・能美鉄道利用連携会議など広域で連携している。さらに、能美市では専門家を交えた観光戦略会議で具体的なアクションプランもつくっている。

9、九谷焼振興について

(北市町)

- ・九谷焼は衰退の一途をたどっていると感じる。九谷陶芸村には九谷焼技術研修所があるがそこで学んだ人たちが地元で活躍するためには作業ができる工房が必要となってくる。陶芸村内にある支援工房は入居期間が限られている。陶芸村の空き店舗を活用した職人工房ができると聞いたが、どうなっているのか。作品を陶芸村店舗で販売することで陶芸村の繁栄につながるのではないかと。伝統産業を守ることで市として能美市の観光に繋げていくことが有効な手段ではないか。

(市長)

- ・九谷焼技術研修所の卒業生の多くは市外に出てしまう。支援工房も定員が限られている。そこで陶芸村の一店舗を職人工房として活用しようとしている。九谷焼を制作しているところを見たことがない人が多いと思われるので、職人には技術を披露してもらい、技の高さを実感してもらい、購買意欲を向上させるような見せる場として観光スポットにしようとしている。

10、都市計画マスタープラン（古墳整備）について

(徳久町)

- ・都市計画マスタープランの史跡地区ゾーンについて、能美古墳群整備の一環として本格的に西山古墳整備に着手されると思っている。隣接している秋常山古墳と一体感のある整備がされると期待している。古墳区域内はもちろん、区域外も含めた整備計画を実施し、学習の場や観光の場となるようにしてほしい。道路の整備や回遊路、ホテルも住んでいる水路の整備もお願いしたい。
- ・関連して下開発町、荒屋町の古墳発掘・整備について完了しているものと思われるが、これらの古墳群の活用についても聞きたい。

(市長)

- ・下開発町、荒屋町の古墳発掘・整備については確かに完了している。能美市には 5 つの国指定の古墳があり整備を進めていくが、なかなか人が来ないのが実態である。子ども達に聞いてもあまり興味がないようである。他の地域の古墳を視察しているが、どこも同じ課題を抱えている。人を呼び込むため、2020 年秋に竣工予定の新博物館をスタート地点とした、アプリを使った古墳めぐりをできるようにするなど、来た人に楽しんでもらえるようにしていきたい。アイデアがあれば教えてほしい。

(市民)

- ・中国地方のやまなみ街道ではレンタサイクルロードを整備して、ネット配信をしたところ、外国の方がたくさん来ていると聞いた。

1 1、通学について

(荒屋町)

- ・冬期間の通学バスを運行して欲しい。

(市長)

- ・学校から 2.5 km以上の離れた町へバスを運行している。残念ながら荒屋町は対象外になっている。暑くても雪でもみんなで頑張って歩いてもらうことが子どもの元気、ふるさと愛の醸成につながると思う。大雪の時は、休校措置を講ずるなどする。普段は歩いて欲しいと思っている。

(下清水町)

- ・子どもたちは、朝は同じ時間に登校するが、帰りは学年によって時間がバラバラで、5～6年生は帰りのバスが使えないこともある。帰りは2便にするなど対応してもらえないか。
- ・夏の異常気象、変質者のこともあり心配している。

(市長)

- ・そのような声があることは承知している。地域の見守り隊やPTAの協力をぜひお願いしたい。みんなで話をしながら歩くことも大切だと思う。ご理解ご協力をお願いしたい。

(市民)

- ・往復6キロメートルを歩くのは大変である。市としてできない理由があるのではないか。

歩いたほうがいいのかどうかは一概には言えないのではないかな。

- ・時代は変わっていると思う。柔軟に考えてほしい。

(市長)

- ・通学バスについて国の指針を参考に判断している。ご意見として承る。

12、その他

(市民)

- ・クアハウスの今後について利用者の中には不安に思っている人もいる。現在は料金も安く、高齢者にとっては生活の場となっている。指定管理者が変わると若い人向けになるのではないかといった声もある。新しくなっても高齢者に優しい施設となって欲しい。情報は逐一出して欲しい。

(市長)

- ・詳細は今から決めていく。現在、利用している人が引き続き利用でき、健康増進に寄与できるような施設にする。

(市民)

- ・辰口まつりのじょんから踊りコンクールでは、20人以下のチームは審査の対象にならない。参加するだけとなっている。少人数のチームも審査対象としてほしい。

(市長)

- ・担当課に確認する。

※ 後日、観光交流課職員から市民に対し、じょんから踊りコンクールには10人以上のチームが参加でき審査の対象になっていることを説明した。

●市長あいさつ

- ・いろいろな意見を頂き有難い。現地現場主義をつらぬき、意見交換をしていきたい。今日は職員も参加している。皆さんの声を施策に反映していく。